

市町一体の姿勢評価

がれき処理への県対応

県議会の山本教和議長は四日の定例記者会見で、東日本大震災で発生したがれき処理への県当局の対応について「市町と一体となって取り組んでいくという姿勢が表れている」と評価した。

山本議長は、一日の全員

協議会での鈴木英敬知事の

説明について「県は施設を持っていないので、(処理を)市町にお願いしなくてはいけないが、丸投げするのではなく、県と市町が一体となって取り組んでいくという姿勢が表れていた」と述べた。

また「市町で聞く説明会や議会対策などで必要があれば、県職員が出掛けてアドバイスをするということなので、県、市、町が一体となって取り組んでいくということ、各議員もひしひしと感じた」と話した。一方、受け入れに反対している県内の首長に対しては「県として、理解を求め、努力されていくのではないか」とした。